

会場 シネマスコール

●主催:シネマドリフターズ(cinema drifters)、影意志(Ying E Chi)、シネマスコール(cinema skhole) ●協賛:香港藝術發展局(Hong Kong Arts Development Council) ●協力:艺鶴(Art and Culture Outreach)、香港藝術發展局(Hong Kong Arts Centre)、香港電台(rthk)

tel:052-452-6036 twitter:@cinemaskhole URL:www.cinemaskhole.co.jp

連日11:50〜

★日本初公開! 香港の「今」

香港

5月6日 終映後トークイベント
木全純治(シネマスコール支配人) + リム・カーワイ(映画監督)
《香港のインディペンデント映画を巡って》

を映しだすインディペンデント映画9本一挙上映。

開催期間

料金 当日 一般 1500円 学生 1300円 会員 1100円
前売 一回券 1200円 三回券 3300円 (前売り券:シネマスコール窓口 / 名古屋市内のプレイガイドにて発売)

映画祭

5/6(Sat) から 5/12(Fri) まで

インディペンデント

プログラム ◎A《乱世備忘—僕らの雨伞運動》5.6[土]+5.12[金]
◎B《憂いを帯びた人々》5.7[日]+5.11[木] ◎C《狭き門から入れ》5.8[月]+5.9[火] ◎D《哭き女(なきおんな)》5.9[火]+5.10[水] ◎E《河の流れ時の流れ》5.8[月]+5.10[水] ◎F《香港の今が分かる傑作短編集《九月二十八日・晴れ》《遺棄》《表象および意志としての雨》5.7[日]+5.11[木] ◎G《アウト・オブ・フレーム》5.6[土]+5.12[金]

2017年 in 名古屋

日本で香港映画といえば、ジャッキー・チャン、マイケル・ホイ、ツイ・ハーク、ジョニー・トー、ウォン・カーワイなどの名前を思い浮かべる人が多い。彼らが手がけたカンフーやアクション、コメディ、フィルムワールなど香港の環境にあわせて独自の発展を遂げたジャンル映画や娯楽映画は、韓流が流行るずっと前に、日本のみならず世界中で一世を風靡した感がある。しかし、そのほとんどが大手映画制作会社で制作され、巨大な流通ルートに乗せられた商業映画だ。実は90年代に入っ

から香港でも以上のような映画とまったく異なる制作体制・流通ルートで作られたインディペンデント映画が徐々に増えて来た。その中で特に目立つのはインディペンデント映画の制作のみならず、配給や映画祭まで手がける団体「影意志」だ。しかし、残念ながらこういったインディペンデント映画は日本ではほぼ全く紹介されたことがない。劇場公開はおろか、映画祭でもなかなか紹介されてこなかった。ベルリン、バンクーバー、釜山などで上映されたこうした映画はレベルが決して

低くないはずなのだが、日本で公開されなかった理由はおおそそ想像がつく。娯楽映画を中心とする香港でもこういったインディペンデント映画はあまり知られておらず、劇場公開もかなり限定されていることを考えると、日本でも香港映画に対する先入観がやはりあるのではないかと想像できる。

二〇一七年、香港が中国に返還されたから20年になる年。返還の条件の一つは、50年間は香港での一国二制度が保証されるという条件だった。現在、それから20年しか経っていないにも関わらず、この大きな実験は名実共に存続しているのかとの疑念が湧き起きている。これには二〇一四年秋に起きた「雨傘運動」の影響が大きいだろう。この運動により、返還された香港と中国本土の矛盾が急激に国際的に注目された。矛盾は孕んだこの二つの異なる体制は、互いの意思疎通が機能しないことで、最終的には破綻することさえ予想される。しかしこうしたコミュニケーション不全は二〇一四年になって突如発生したわけではない。近年の香港での変化に興味を持つものであ

れば、そこに至るまでの社会の推移と民衆の怒りが爆発したことに納得できるはずだ。香港の商業映画ではこうした香港と中国との関係やコミュニケーションの問題は決して登場しないのだが、実はこうした問題を真摯に考察したインディペンデント映画は実は二〇〇〇年に入ってから数多く存在していた。香港の娯楽映画に馴染むコアな香港映画ファンにこうした質問を投げかけると、すぐさま香港インディペンデント映画は「退屈・難解」という答えが帰ってくることも予想されるが、それはまったくの杞憂だ。二〇一六年に香港アカデミー賞で最優秀映画を受賞し、中国政府が今一番恐れている映画「十年」

(二〇一六年大阪アジアン映画祭で上映され話題を呼んだが、この夏、ついに日本の劇場公開も決定し)を取りあげるまでもなく、実は香港のインディペンデント映画は社会派でながらも、エンターテインメントなのだ。特に今回集められた作品は一般の香港娯楽映画が決して扱わないような社会的・政治的テーマを扱いつつ、実はエンターテインメント性が高い。ある意味では、香港映画の伝統に沿っており、自己満足に陥らないと、決して観客から離れないというスタンスで制作されている。

雨傘運動が勃発したきっかけは、二〇一七年三月末におこなわれた特別行政区長官の選挙制度について、香港側と中国側の解釈があまりにも食い違ったことにある。この映画祭は敢えて選挙に合わせた開催を意図した訳ではないが、たまたま集まった作品のどれもが、なぜ香港と中国との間のコミュニケーションがうまく機能しないのか、なぜ香港と中国の間に多くの矛盾が存在するのか、そして今後の香港と中国の関係はどうなるのかといった疑問について、映画の多角的な視点からヒントを提供してくれるのである。香港と中国の過去・現在・未来を巡って、今回の映画祭を通じて何かを感じ取ってもらえたら幸いである。

F 5.7日5.11日 **香港の今が分かる**

[3作品上映/計101分/Blue-Ray]
日本語字幕▶神戸明世

九月二十八日・晴れ

九月二十八日・晴……a Sunny day



日本でもよく知られる中国インディペンデント映画監督、イン・リャン(広亮)が香港亡命後初めてメガホンを取った短編。タイトルにある九月二十八日は雨傘運動が起きた日でもある。雨傘運動が勃発した当日、映画配給会社に勤める女性がまもなく老人ホームに入る父親に会いに行く……。父親役には香港アカデミー賞前会長ジョー・チョン(張同祖)。中国で活躍した日本の撮影監督/映画監督、大塚竜治の格調高い映像も特筆すべきものだ。本作は2016年台湾アカデミー賞の最優秀短編賞を見事受賞した。

【2016年/25分/カラー/広東語】
監督・脚本▶イン・リャン *Ying Liang* | 撮影▶大塚竜治
主演▶ジョー・チョン、アイビー・パン

遺棄

遺棄……When we cannot Breathe



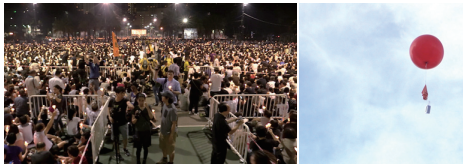
父親が自殺し、1人残された息子。フラッシュバックで描かれる父親の生前の行動から、社会に「遺棄」された人々の姿が浮かび上がる。

香港テレビ局 (RTHK) に所属する映像ディレクター、マック・ジーハン(麥志恆)が撮った、胸を締めつけるようなヒューマンドラマの傑作。この映画から雨傘運動の遠因でもあり、未だに解決の糸口が見つからない、さまざまな不平等や社会問題が見えてくる。長篇デビューこそ果たしていないものの、パワフルな本作を振り上げた不世出の監督マック・ジーハンは、今後最も期待できる香港人監督であると確信している。

【2013年/50分/カラー/広東語】
監督▶マック・ジーハン *Mak Chi Hang*

表象および意志としての雨

作爲雨水：表象及意志
Being Rain: Representation and Will



香港の社会運動を撮影していた映像制作チームは、ある謎の組織が人工的に天候を操作し、民衆のデモへの参加意欲を損なおうとしていることに気づく。彼らは組織の場所を突き止め、潜入を試みるが……。

「乱世備忘」の監督でもあるチャン・ジーウンが、ジョニー・トー主宰の新人監督発掘コンペティション「鮮浪潮」で助成金を得て制作したフェイクドキュメンタリーであるが、制作されたのは2014年に雨傘運動が起きる前、デモ運動が盛んにおこなわれた時期で、陰謀論の解説としても興味深い。

【2015年/26分/カラー/広東語】
監督▶チャン・ジーウン *Chan Tze Woon*

香港の政治・歴史・社会のあらゆる現状を映し出す！

日本初公開、未知の香港インディペンデント映画9本

東京テアトル新宿に続き、名古屋シネマスコアールにて一挙上映

狭き門から入れ

三條窄路……Three Narrow Gates



返還から10年を経た香港が舞台。中国政 府が約束した「一国二制度」は果たして維持されているのか。警察、新聞記者、牧師という接点を持たない3人が弁護士殺人事件を通じて繋がり、中国官僚と香港不動産企業が癒着し利権を得たスキャンダルを暴いていく。真相への門が益々狭くなっていくこの時勢、果たして彼らは自分の正義を貫くことができるだろうか？

ヴィンセント・チュイ監督は、商業映画ではタブーとされる香港と中国の抱える矛盾や政治の陰謀を描くと同時に、第一級のクライムサスペンスとしても成功している。過去2度の香港アカデミー賞助演男優賞に輝くりウ・カイチー (廖啓智) ―この夏に日本劇場公開が決定した、10年後の香港の未来を問う問題作「十年」での名演もまた素晴らしい―が主役の牧師を熱演する。そのほか、日本でもよく知られる中国のドキュメンタリー映画監督ドウ・ハイビンがスキャンダルの鍵を握る中国警察役を好演している点も見逃すことができない。

【2008年/105分/カラー/広東語/Blue-Ray】
監督▶ヴィンセント・チュイ *Vincent Chui*
出演▶リウ・カイチー、ジョーマン・チャン、ドウ・ハイビン
脚本▶グレース・マック | 日本語字幕▶吉田雅子

アウト・オブ・フレーム

片甲不留……Out of Frame



北京近郊の芸術村「宋莊」は、政府にとって都合な絵の展覧会やインディペンデント映画祭やパフォーマンスなどを開催したという理由で、常に当局の監視下に置かれていた。本作はその実在の芸術村をモデルにしている。政府に封殺される画家が自身の血で創作を続け、公安の暴力に對抗する。監視、監禁され、精神的にも追い詰められた彼はある“取り返しのつかない決断”をする……。

実際、2014年に香港雨傘運動が起きた直後、「宋莊」の芸術家たちは連帯声明を出して学生たちを支援したが、直後に公安に逮捕され半年以上の刑罰を科された。この映画が完成した現在でも、拘束されたままの芸術家がまだ居るのだ。本作はそのような芸術家たちに捧げられた映画である。監督は過去ベルリン国際映画祭、釜山国際映画祭などにも出品の経験があるウィリアム・クウォック。本作から読み取れるのは、香港の自由な創作環境もいずれは中国のようになることと恐れる監督の視点である。今回の香港インディペンデント映画祭の開催も、この自由な環境を守るための一つのささやかな反抗声明と考えて頂けたらと思う。

【2015年/95分/カラー/中国語/Blue-Ray】
監督▶ウィリアム・クウォック *William Kwok Wai-Lun*
日本語字幕▶櫻井里絵

憂いを帯びた人々

憂憂愁愁的走了……Leaving in Sorrow



中国返還にともなう香港人の心境の変化を描いたこの映画は、香港、北京、深セン、サンフランシスコを舞台に、信仰を失った牧師、希望を持っていない無気力な若者、過去の傷を背負った雑誌編集者に焦点を当てた群像劇である。香港インディペンデント映画の旗手、ヴィセント・チュイ監督の劇映画長篇デビュー作。ヴィセント・チュイ監督は映画を撮りながら、香港インディペンデント映画の総本山「影意志」を主宰インディペンデント映画の上映・配給・制作などを精力的に行っており、今や香港インディペンデント映画シーンに欠かせない人物だ。

本作は香港を代表するスターで日本でも知られる「恋の紫煙」のショーン・ユー (余文樂) の主演デビュー作でもあり、そこでは年上の女性編集者に愛慕する青年を好演している。ラース・フォン・トリアーの「ドグマ95」運動に応じて、全編ロケーション撮影、手持ちカメラ、照明なしなどのルールに従って制作された、香港では最初の「ドグマ映画」である。返還後の香港、そしてその未来の情景を予見する香港インディペンデント映画の傑作！

【2001年/90分/カラー/広東語・中国語・英語/DVD】
監督▶ヴィンセント・チュイ *Vincent Chui*
出演▶ショーン・ユー、アイビー・ホー、トニー・ホー
脚本▶バトリック・コン | 日本語字幕▶市川菜摘

河の流れ 時の流れ

河上變村……Flowing Stories



商業映画界でも知られた女性監督、ツァン・ツイシャン(「ビッグ・ブルー・レイク」は大阪アジアン映画祭で上映され、「君の香り」は日本でも劇場公開された)による、自身が生まれ育った村の過去・現在・未来を複数の家族のストーリーを通じて多面的に描いたドキュメンタリー。舞台となる村からフランス、イギリスへと移民した家族の映像は、香港のとある村の近代史、世界との関係を野心的に構築し、過去100年に渡る香港社会の縮図を浮き彫りにしている。

素晴らしい編集を手掛けたのは長年エリック・ロメールの映画の編集に従事している香港人メアリー・スティープン。河瀬直美監督の「萌の朱雀」「殯の森」の映画音楽を手掛けた茂野雅道がこの映画のために作ったオリジナル曲は、香港の近代史の変遷にうまくマッチしている。劇場公開された際には、香港の本土意識の高まりとともに大きな反響を巻き起こし、地元ではドキュメンタリー映画としては異例のロングラン上映され、記録的なヒットとなった。

【2014年/102分/カラー/広東語・客家語・フランス語など/Blue-Ray】
監督▶ツァン・ツイシャン *Jessey Tsang*
編集▶メアリー・スティープン | 音楽▶茂野雅道
日本語字幕▶安部和美

乱世備忘一僕らの雨傘運動

乱世備忘……Yellowing



2014年に起こった雨傘運動の始まりから終りまでを記録したドキュメンタリー映画。監督のチャン・ジーウンは運動全体を俯瞰することなく、無名の若者たちに焦点をあてた。

この映画が貴重なのは、雨傘運動の正義、悲壮、あるいはその革命的な価値と意義を謳ったことにあるではない。むしろ、人々を刺激するようなこうしたエピソードを、丁寧に回避している点にある。地位の高い人間の発言やニュース映像をほぼ引用せず、あくまでも撮影する対象として数人の若者に焦点を当て、ひたすら運動に没入していく彼らを追いかけ誠実に記録している。彼らにとって、このドキュメンタリーは一生にただ一度しか描くことができない、とてつもなく感動的な青春物語なのである。

2016年のバンクーバー国際映画祭で上映された時、アメリカの有名な映画評論家デビッド・ボードウェル (david bordwell) は本作を最高の5本の内の1本だと称し、香港の若者に大変勇気付けられたと絶賛した。昨年の台湾アカデミー賞(金馬賞)の最優秀ドキュメンタリー映画にノミネートされているが、香港ではいまだに劇場未公開である。

【2016年/128分/カラー/広東語/Blue-Ray】
監督▶チャン・ジーウン *Chan Tze Woon*
日本語字幕▶最上麻衣子

泣き女

哭喪女……Keening Woman



香港実験映画の第一人者であるリタ・ホイ監督の劇映画長篇第2作。2013年釜山国際映画祭でワールドプレミアされた際には、韓国の鬼才監督キム・ギドクに絶賛された。

死んだ親戚の通夜を経験した後、自身が持っていない記憶やアイデンティティの間をさまよいながら、異常行為を繰り返すヒロイン。葬儀の時に遺族の代わりに故人を悼み「悲しみ」などの気持を表現する「哭き女」を主人公としたこの不思議な物語は香港の過去・現在・未来を寓意的に描くホラー映像詩だ。

実験的なスタイルとジャンル映画を融合し、インディペンデント映画でもなく、商業映画でもない、従来の香港映画のイメージを打ち破るこの美しい作品からは、香港という都会への愛が画面の隅々からにじみ出ている。映画の終盤に響き渡るテーマソング「さよなら、香港」(作：黃衍仁)を聞けば、誰でも瞬時にそう感じるに違いない。ヒロインを全身全霊で演じた香港のスター女優、ミシェール・ワイ (詩雅) はあまりにも美しい。

【2013年/115分/カラー/広東語/Blue-Ray】
監督・脚本▶リタ・ホイ *Rita Hui*
主演▶ミシェール・ワイ、ミツイ・ハナ
日本語字幕▶河合彩子

日本語字幕▶河合彩子

連日2本上映・5月6日終映後トークイベント開催!

2017年6月3日[土]から9日[日]まで
 大阪九条 シネ・ヌーヴォにて
 《香港インディペンデント映画祭》
 開催決定!

香港インディペンデント映画、連日2本上映[入れ替え制]

5月6日終映後Talk Event開催!

5/6 土	11:50 A	乱世備忘一僕らの雨傘運動 Yellowing 128分【監】チャン・ジューン	14:10 G	アウト・オブ・フレーム Out of Frame 95分【監】ウィリアム・クオック	《香港のインディペンデント映画を巡って》 木全純治◎シネマスコーレ支配人× リム・カーワイ◎映画監督/本映画祭主催
5/7 日	11:50 B	憂いを帯びた人々 Leaving in Sorrow 90分【監】ヴィンセント・チュイ	13:35 F	香港の今が分かる傑作短編集 計101分 九月二十八日・晴れ【監】イン・リャン 遺棄【監】マック・ジーハン 表象および意志としての雨【監】チャン・ジューン	
5/8 月	11:50 C	狭き門から入れ Three Narrow Gates 105分【監】ヴィンセント・チュイ	13:50 E	河の流れ 時の流れ Flowing Stories 102分【監】ツァン・ツイシャン	
5/9 火	11:50 D	泣き女 (なきおんな) Keening Woman 115分【監】リタ・ホイ	14:00 C	狭き門から入れ Three Narrow Gates 105分【監】ヴィンセント・チュイ	
5/10 水	11:50 E	河の流れ 時の流れ Flowing Stories 102分【監】ツァン・ツイシャン	13:45 D	泣き女 (なきおんな) Keening Woman 115分【監】リタ・ホイ	
5/11 木	11:50 F	香港の今が分かる傑作短編集 101分 九月二十八日・晴れ【監】イン・リャン 遺棄【監】マック・ジーハン 表象および意志としての雨【監】チャン・ジューン	13:45 B	憂いを帯びた人々 Leaving in Sorrow 90分【監】ヴィンセント・チュイ	
5/12 金	11:50 G	アウト・オブ・フレーム Out of Frame 95分【監】ウィリアム・クオック	13:40 A	乱世備忘一僕らの雨傘運動 Yellowing 128分【監】チャン・ジューン	

詳細続々更新中! (FB・Twitter・公式サイトにて)

公式サイト jphkindie.wixsite.com/2017
 facebook facebook.com/jphkindie2017
 twitter @cinemadrifter

映画祭・上映等に関するお問い合わせ
 [主催] cinemadrifter@hotmail.co.jp
 [劇場] eigacinemaskhole@gmail.com

主催▶cinema drifters, 影意志 Ying E Chi, シネマスコーレ Cinema Skhole
 協賛▶香港藝術發展局 Hong Kong Arts Development Council
 協力▶Art and Culture Outreach, 香港藝術中心 Hong Kong Arts Centre,
 香港電台 rthk



字幕製作▶唐津正樹 | 字幕監修▶最上麻衣子、リム・カーワイ
 デザイン▶阿部事務所&高橋彩基

入場料金 当日 = 【一般】1,500円 【学生】1,300円 【会員】1,100円
 前売 = 【1回券】1,200円 【3回券】3,300円

【前売券】
 ▶シネマスコーレ窓口
 ▶名古屋市内のプレイガイド
 にて発売中

JR名古屋駅太閤通口・ビックカメラ南西角

シネマスコーレ

cinema skhole
 ☎ 052-452-6036

シネマスコーレ
 (水色のビルが目印)

名鉄
 グランド
 ホテル

ビック
 カマ

太閤通口土分地下街

名古屋駅

三重銀行

浜之女

アジア超級
 電影中心

愛知県名古屋市中村区椿町8-12
 アートビル1F 〒453-0015